

各部の主要施策紹介

各部ごとに行っている西条市の重要施策について紹介します。また、市の施策と関係する国・県の事業などがあればあわせて紹介します。

No.11 教育委員会 指導部

学校教育課



指導部長
永井 敬則

豊かな人間性や自ら学び自ら考
えるなどの「生きる力」を育む
学校教育を推進します

教育委員会指導部は、学校・家庭・地域の密接な連携を強化し、「心豊かにたくましく生きる西条っ子の育成」に向けて、さまざまな施策に取り組んでいます。主な施策をご紹介します。

【12歳教育推進事業】

本事業は、小学校6年生を対象として、さまざまな体験活動の中から確かな社会性を養ってもらい、将来の西条市を担う若者の育成を図ることを目的とするものです。今年度の事業は、防災先進地研修と3回の子ども防災サミットを行いました。

防災先進地研修は夏休みを利用し、各小学校から選ばれた60名の代表児童が2つの班に分かれて、高知・徳島および愛南町を訪問し、土砂災害や地震・津波についての研修を行いました。

また、子ども防災サミットは、12歳教育の根幹をなすもので、各小学校の6年生の代表児童が集まり、学校紹介・防災への取組発表や意見交換を行う中で、思考力や判断力を高めるもので、7月、12月、2月に行いました。特に、2月7日の第3回子ども防災サミットでは、市内の6年生全員が総合文化会館に集まり「災害に強い西条市にしよう！」のテーマのもと、実践発表やパネルディスカッションを通して活発な意見交換が行われ、最後に「サミット宣言」を発表し、生きて働く防災力の向上が図られました。



熱心に発表者の意見を聞く
サミット参加者

【中学校防災教育推進事業】

台風災害や今後予想される南海地震等に備えるためには、防災上必要とされる資質・能力・技能を高め、生きて働く防災力を身に付けることが大切です。中学校では、地域との連携のもと、防災知識・技能の習得、防災行動力の育成お

よび啓発活動等に取り組んでいます。今後は、小学校の防災教育との連携をさらに進めていきたいと考えています。



西条西中学校で行われた防災
学習の様子

【小中学校連携教育推進事業】

今年度から取り組んでいる事業で、小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間を見通した「小中連携教育」の在り方を研究し、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着や豊かな心を養っています。各中学校区単位で、出前授業や教職員の研究交流、小中学生の交流活動等が活発に行われています。



7月に行われた小松中学校と小松小学校の石鎚登山。苦しいけれど励ましあい、助け合った中から信頼関係が芽生えました。

【中学生海外派遣事業】

次代を担う若者たちが、国際社会の一員としてフランスのとれた感覚を身につけて、国際社会に通用するたくましい人材に育つことを願い、中学生を海外に派遣しています。

今年度は、アメリカ合衆国ミネソタ州チサゴ市での11日間のホームステイを通じて、30名の中学生が異なる文化・習慣・生活の一端に触れるとともに、現地の人々やホストファミリーと積極的に親交を結び、多くのことを学びました。報告会では、団員の皆さんから着実な成果と頼もしさが感じられました。



チサゴ市長と記念写真を撮る派遣団員